



M国の人口を⑩〇とおきます。

(1) 親と同居している未成年者は

$$\textcircled{100} \times 0.24 = \textcircled{24}$$

また、その家族の人数は

$$\textcircled{24} \times \frac{3.2}{3.2 - 2} = \textcircled{64}$$

買い占めグループAはその20%なので

$$\textcircled{64} \times 0.2 = \textcircled{12.8}$$

この時点でわかっていることを整理すると

買い占めグループA 12.8%

買い占めグループB 10%

買い占めグループC 10%

一般人  $100 - (12.8 + 10 + 10) = 67.2(\%)$

また、買い占めグループAの買占めの目標は1人あたり

$$16 \times 20 \div 4 = 80(\text{ロール})$$

です。

買占めA~Cの買占め目標の総和は、最初にあった買い置きを除くと

$$\textcircled{12.8} \times (80 - 2) + \textcircled{10} \times (10 - 2) + \textcircled{10} \times (5 - 2) = \textcircled{998.4} + \textcircled{80} + \textcircled{30} = \textcircled{1108.4}$$

ここから店頭と製造メーカーの在庫を引くと

$$\textcircled{1108.4} - \textcircled{100} \times 2 - \textcircled{100} \times 2 = \textcircled{708.4} \rightarrow \text{この分買占めが行われれば終了}$$

入荷⑩〇に対して買い占めグループの消費分は

$$\textcircled{12.8} + \textcircled{10} + \textcircled{10} = \textcircled{32.8}$$

なので、買占めに充てられるのは

$$\textcircled{100} - \textcircled{32.8} = \textcircled{67.2}$$

なので、これを踏まえて表にまとめます

	3/2 (月)	3/9 (月)	3/12 (木)	3/16 (月)	3/19 (木)	3/23 (月)	3/26 (木)	3/30 (月)	4/2 (木)
入荷	100	100	100	100	100	100	100	100	100
買占め充当	67.2	67.2	100	67.2	100	67.2	100	67.2	72.4
買占め総量	67.2	134.4	234.4	301.6	401.6	468.8	568.8	636	708.4

表より、4/2 に買占めの目標に到達し、27.6 を一般人が買うことができますが、一般人全員には行き渡りません。よって次の入荷日が答になります。  
(答)4月6日

(2) 解答例は経営者であることを重視したもので、国民の姿勢としては問題があるかもしれませんが、今回、この問題を通して見えるのは

- ① 買占めは在庫が移っただけと見ることができる。
- ② 少なからず消費が減っている可能性がある。

を重視すれば解答例のようになりますし、増産に応じる場合も次のようなものが考えられます。

増産には応じるが騒動が収束し在庫過多になった場合は、国に買い取ってもらえるような約束をとりつける。

次に②を重視するならば、一刻もはやく全員に商品をとどける必要がありますから、次のようなものが考えられます。

可能な限り増産する。

できれば他メーカーと足並みをそろえたい。

ただし、売り上げを注視して、商品のダブつきが生じないように努力する。